

サードプレイス

2022. 9. 27

サードプレイスすなわち第三の場所である。それは、コミュニティにおいて、自宅や職場・学校とは隔離された心地よい第三の居場所を指す。大人であれば、サードプレイスの例としては、カフェや公園などであろうか。

アメリカの社会学者であるレイ・オルデンバーグは、その著書『ザ・グレート・グッド・プレイス』において、サードプレイスが、現代社会において重要であることやその場所に対する特別な思いなどを論じている。

オルデンバーグは、ファーストプレイスをその人の自宅で生活を営む場所、セカンドプレイスは職場、おそらくはその人が最も長く時間を過ごす場所、そして、サードプレイスは、コミュニティライフのアンカーともなるべきところで、より創造的な交流が生まれる場所としている。

また、無料あるいは安い、食事や飲料が提供されている、アクセスがしやすく歩いていけるような場所、習慣的に集まってくる、フレンドリーで心地よい、古い友人も新しい友人も見つかるようなところが真のサードプレイスの特徴を備えていると言っている。

現代では、サードプレイスとは、家庭でも職場でもない第三のとびきり居心地のよい場所である。ストレスの多い現代社会においてリラックスできる場所である。サードプレイスを表現するときに引き合いに出されるのがイギリスのパブやフランスのカフェ、イタリアのバルなどである。そこには、ゆとりや活気がある。ヨーロッパでは、行きつけの店があるのが当たり前である。それが常識となっている。

日本はというと、大都市圏を中心にファーストプレイスとセカンドプレイスの整備に力を入れてきた。その結果、住宅とオフィスを往復するだけで1日が終わってしまうような心の豊かさや他者との交流に欠ける生活を送ってきた。日本では、ヨーロッパとの考え方の違いもあり、サードプレイスが根付きにくい。

大人だけでなく子どもにとってサードプレイスはどのようなのだろうか。家庭と学校では受け止めきれない問題も多い。家庭にも学校にもなじめない子どもに新たな居場所を提供することはできないだろうか。人が生きていく上で居場所づくりは重要である。

子ども食堂はどうだろうか。どんどん広まってきている。調べてみた。福島市には、学習支援を含む子ども食堂が35もある。福島市子ども食堂NETや福島市子どもの居場所づくりバックアップ本部もある。福島市子ども食堂MAPには、次のことが書かれてある。

子どもたちの居場所づくりとして全国的に広がる「子ども食堂」

みんなであたたかいご飯を囲んで、ちょっとだけほっこりする。

子どもたちにとって安心できる居場所。

ひとりひとりが繋がって、地域全体で子どもたちの育ちを支えていく。

それが「子ども食堂」です。

一見すると、何も問題を抱えていないように見える子どもにとっても、第三の場所があったほうがいだろう。近い将来、部活動の外部化が進んでいく。第三の場所としてわるくないかもしれない。弱体化してきたコミュニティ復活の一助にもなるかもしれない。部活動のことを考えていたら、サードプレイスに行きついてしまった。